

1

「サザエさん一家の〰️もりのわ〰️話吹き出しコンテスト」受賞作品の紹介

本コンテストは、林野庁が令和5年から長谷川町子美術館の協力を得て開催するもので、令和7年で3回目となります。

「サザエさん」の4コマ漫画の吹き出しに、「森林、木、木材または「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用(もりの環)などをテーマにした楽しいセリフを考えて、タイトルとともに応募いただくもので、8歳〜75歳と幅広い年齢層から1,087作品の応募をいただきました。

10代からの応募が最も多く、森林環境教育の一環として学校単位で応募いただいたケースも多数ありました。

開催概要

応募について
4コマ漫画の吹き出しのセリフとタイトルを記入してください。
森林や木、木材に関する内容であればOK!
お題となる4コマ漫画は、全部で4種類あります。
詳しくは募集ページをご覧ください!

賞について
林野庁長官賞 2点
みどりの感謝祭運営委員会賞 1点
長谷川町子美術館賞 1点
(賞状および賞品は別途ご郵送いたします。)

応募期間
令和7年5月30日(金) 18:00まで

発表及び表彰について
令和7年度ごとに林野庁ウェブサイト等で発表するとともに、秋ごろに都内にて表彰式を開催する予定です。
受賞者には賞状と記念品を贈呈します。
(受賞された方には別途ご連絡いたします。)

応募作品について
林野庁施策のPR等に使用することがあります。

「もりのわ」とは?
豊かな森林を育むために「伐って、使って、植えて、育てる」という(もりの)循環利用の「もりのわ」を色々なものとするのが大切です。そして、豊かな森林の下には豊かな海が育まれます。そうしつづなから、「もりのわ」を掲げていくために、サザエさん一家が「もりのわ」をテーマとして協力してくれることとなりました!

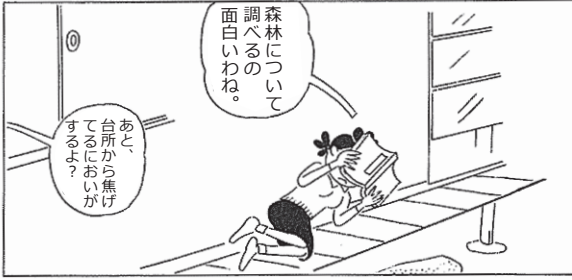
お問い合わせ
サザエさん吹き出しコンテスト事務局
fukidashi_contest@maiff.go.jp

料金は無料
応募資格: 誰でもOK!
※ただし、日本国内在住の方に限る
※森林林業関係者は除く

第34回花と緑の祭典ー「みどりの感謝祭」開催行事

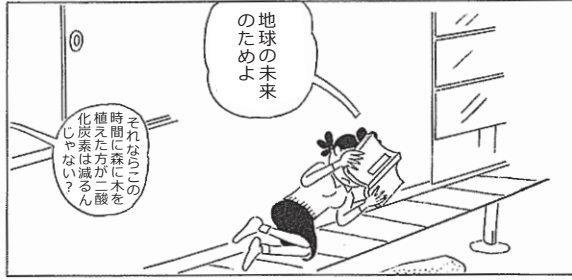
吹き出しコンテスト2025 フライヤー

林野庁長官賞
「森林の役割」
愛媛県久万高原町 竹林遼哉氏(10代)



©長谷川町子美術館

林野庁長官賞
「急がなくても大丈夫」
北海道札幌市 縄乃々香氏(10代)



©長谷川町子美術館



森林・林業・木材産業の大切さの普及啓発につながるもの、4コマ漫画の流れに合うものなどの観点を重視して選考を行い、林野庁長官賞は、北海道札幌市の縄乃々香さんと愛媛県久万高原町の竹林遠哉

選考理由

林野庁長官賞2点

「急がなくても大丈夫」 二酸化炭素を減らすために、なるべく動かないようにしているサザエさんの行動が笑いを誘うとともに、すっ飛んで行ってまで木を植えようとする、おっちょこちょいのサザエさんらしいオチもあり、楽しい作品となっている。

「森林の役割」 サザエさんがふとした疑問をきっかけに森林の働きについて調べて、様々な役割があることを知る描写が素晴らしく、まずは興味を持ち、森林について知ってもらうことが大切であることを教えてくれる有意義な作品となっている。

みどりの感謝祭運営委員長賞1点

「私たちにできること」 身の回りの木材利用について、自分でもできる取組みを考えるきっかけとなる啓発作品であるとともに、サザエさんが学んだ「ウッド・チェンジ」の答えが「まな板無料配布に飛んで行くオチにつながっており、秀逸な作品となっている。

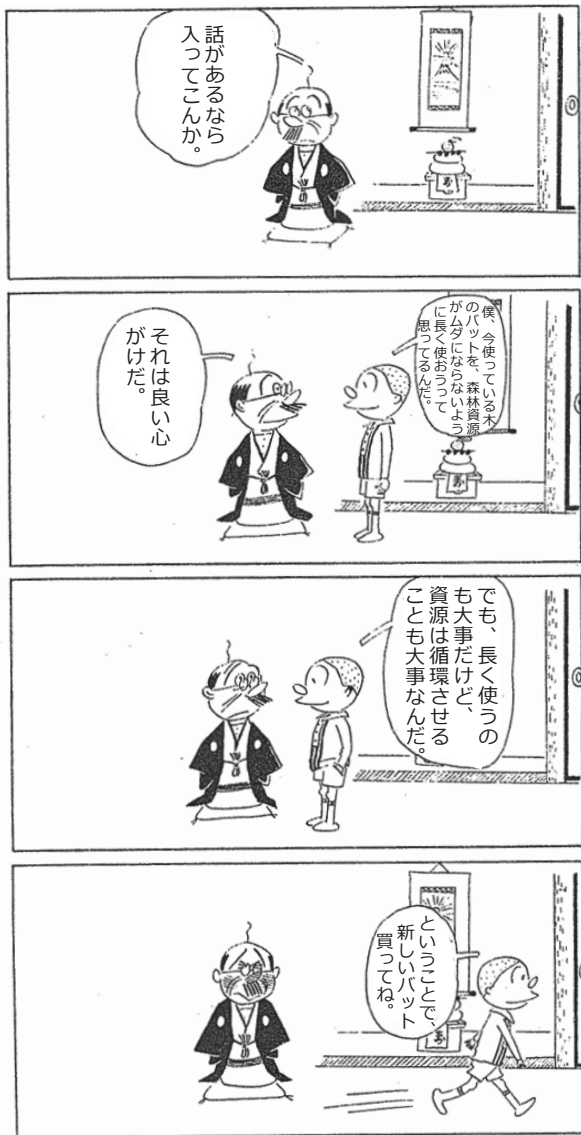
長谷川町子美術館賞1点

「バット」 木材製品をできるだけ長く使うことが、炭素を貯蔵する観点からも重要であることが表現されつつ、一方で森林資源を循環させるため新しいバットを買ってもらおうとするちゃっかりしているカツオ君の性格がうまく表現されており、親しみやすい作品となっている。

さん、みどりの感謝祭運営委員長賞は群馬県伊勢崎市の三島勇一郎さん、長谷川町子美術館賞は静岡県浜松市の清水裕一郎さんが受賞しました。
本コンテストの表彰式は、令和7年11月4日に

「森林×ACTチャレンジ2025」の表彰式等と合同で開催し、その様子は12月号に掲載予定です。

**長谷川町子美術館賞
「バット」
静岡県浜松市 清水裕一郎氏(30代)**



©長谷川町子美術館

**みどりの感謝祭運営委員長賞
「私たちにできること」
群馬県伊勢崎市 三島勇一郎氏(20代)**



©長谷川町子美術館

